

◆ 議題（1）高齢者の就業支援にかかる取り組みの方向について

論点1 高齢者への効果的な就業支援

- ・ 75歳以降の後期高齢者になっても病気やけがをしにくい体作りにも繋がるというのが、このプロジェクトの1つの趣旨だと思われるため、65歳から75歳までを重点的に捉えたらどうか。
- ・ 働きたい高齢者を事業所につなげることも大事だが、それとともに、働きたい高齢者同士をつなげたり、新たな場所で新たな働き方を始めた高齢者とそういう場所を探している高齢者を繋ぐ場を作るといった支援も考えられる。
- ・ 高齢者への働きかけを考えると、高齢者の集まりなどへ出前講座的に企業側から出向くような交流の機会を持って、双方意見を通わせる機会があるといいのではないかと。「働く」とはどういうことなのか、地域に出向いて話してみる機会があると、聞き手側（高齢者）の対象が広がるのではないかと。
- ・ 健康は、身体面だけでなく生活面における健康もあるのではないかと。金銭的に余裕があることで社会的な健康を得ることが出来るので、健康も体力的なところだけでなく、生活の中での意欲なども含めて、広い意味での健康について高齢者側にもわかってもらう必要があるのではないかと。
- ・ 世代や環境によってどう対応すればよいか。高齢者と事業者それぞれに意識改革を促し、変わっていかないといけないのではないかと。
- ・ 高齢者が「雇用という働き方しか知らないから雇用という形態を望む」のであれば、社会自体が変わっていきながら違うアプローチもあると認識してもらい、高齢者の選択肢を広げていくというアプローチが必要ではないかと。中長期的には「枠にとらわれず」という視点を入れるのであれば、そういったところの方向性や高齢者側の意識を変革させていくようなアプローチが施策に入っていると納得感がある。
- ・ 高齢者へ働くことについて、様々な選択の可能性があることを示し、「働く＝会社に帰属する」というイメージを絶たないと次のステップに行けないと思う。しかし、帰属意識はどこかにあるので、今までにない所に帰属する選択肢を示すことも必要ではないかと。
- ・ 団塊世代が75歳以上になる2025年、そして団塊ジュニア世代が65歳以上になる2040年辺りまでをターゲットにしてはどうか（中長期的な視点としては、一つの年代の区切りになる）。
- ・ （社会からの接点が切れて）引きこもっている高齢者をどうやって引っ張り出すのか考えていく必要があるが、この場（シニア活躍応援プロジェクト会議）では、まずは働きたい高齢者の就労・雇用について重点的に議論し、時間的余裕があれば、将来への方向性として検討課題として進めてはどうか。

論点2 事業者への有効な働きかけ

- ・ 今、仕事場では一人の人間に様々なことを求めてしまっているが、業務や人材育成の観点からマネジメントを行う必要があるのではないかと。
- ・ マネジメントで解決できるのであれば、（高齢者就業を）受け入れられる可能性がある。それには結局、双方（事業者と高齢者）のチェンジマネジメントが必要。
- ・ 中小企業は、最低賃金（固定費）の上昇で利益率が大きく落ち、価格転嫁できない中で生産性を上げていかないといけない。高齢者の方にも活躍していただき生産性の向上にも寄与してもらわなくてはならない部分がある。
- ・ 人材確保が厳しい中、高齢者や女性、外国の方にも企業の成長戦略に寄与してもらえないといけない。そのためには、経営者も変わっていかないといけないが、現実的には、事業者も人手不足で、そこに携われる人材がなかなかいない。そういった現実を踏まえて、事業者の意識を変えられるよう力を入れたいと聞きたいのではないかと。
- ・ 事業者側のメリットとして、将来自分達も高齢になっていくことを考えると、事業者と高齢者双方が豊かな高齢期を迎えていくイメージを持てるような場があるといい。将来豊かに暮らせるイメージがあると、どちらにもメリットがある社会になるのではないかと。

論点3 高齢者の就業を支える環境づくり

- ・ 働きたい希望があってもどんなところで雇ってもらえるのか、働き方にはどんなものがあるのか、分からない。（働き方の）メニューを作ってもらいたい。
- ・ シルバー人材センターでは派遣の仕事の依頼が多く寄せられているが、現状では事業主へ提案型のセールスができていない。シルバー内部でも問題意識を持ち始めている。

◆ 議題（2）令和元年度に実施する取組について

○実施する取組の内容

- ・ 老人福祉センターでは、サークルで利用できる部屋がある。セミナーや相談に来た人はこちらから促して求職者のサークルを作って部屋を活用してもらうのはどうか。サークルから就業者が出てきてもそのままサークルに所属でき、就業者と求職者が一緒にいるような場があればいい。
- ・ 今回は単発のセミナーばかりが掲載されているので、連続のセミナーや研修の機会を設けてもいいのではないかと。それによって、その場に来た人同士のつながりも生まれると思われる。
- ・ 高齢者や事業者へ色んなアプローチをしていく中で一番必要なのは、コンサルティングだと思う。通り一遍の形ではなく、もう一歩踏み込んだ形で行うことができれば、流れが随分変わるのではないかと。